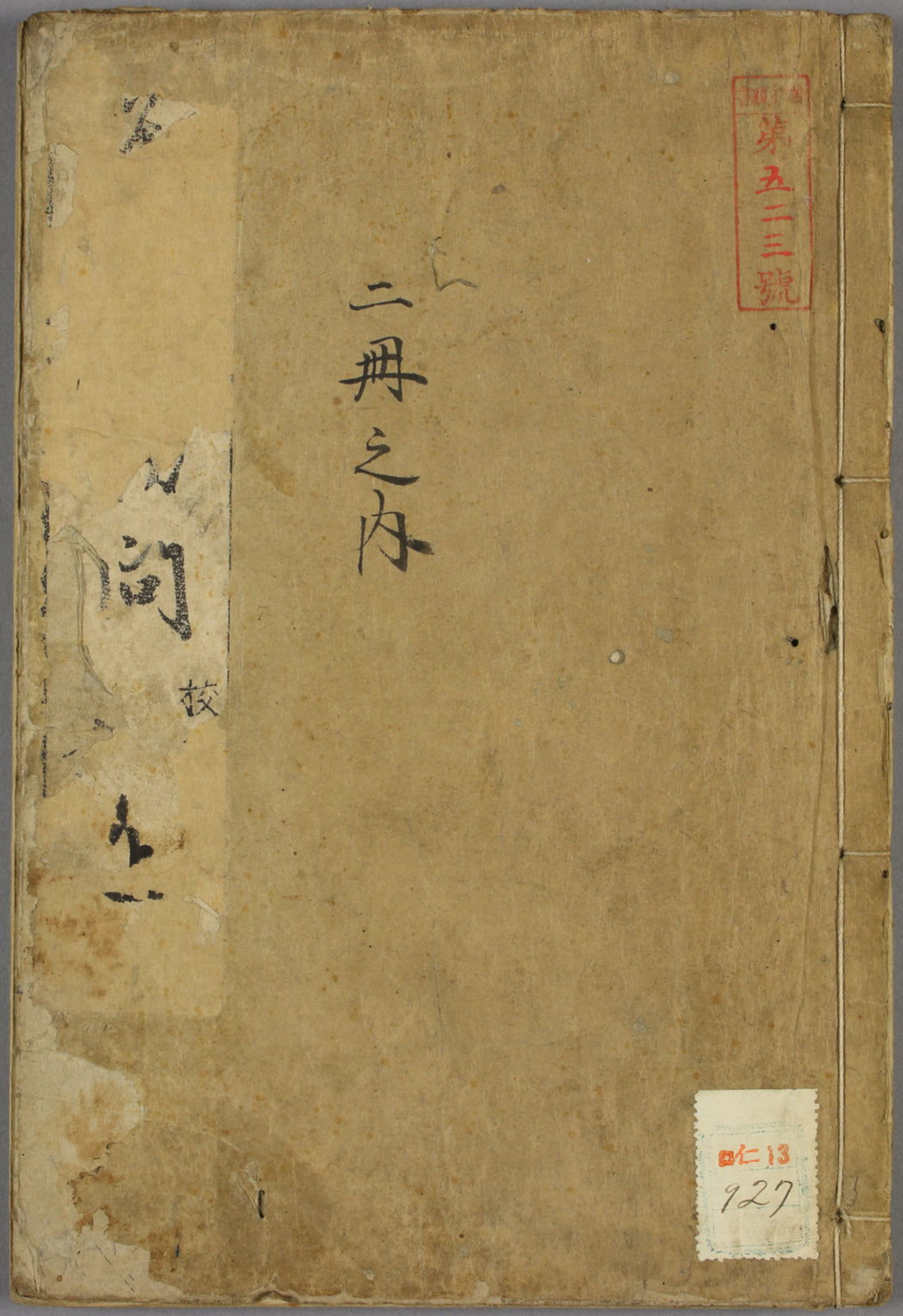

二冊之内
第五二三號
四仁13
927

若林藏書

昭和書庫

周南先生為學初問上

我国れ神道ハ所ちゝ記さゝの神道ゝ昔ハ
天照大神の門靈大殿ゝ在まゝ神宮皇居云
分別ゝ以て祭祀の禮ハ補佐れ堂ゝ和ゝく勤政
ハ皆神德ゝ以て行ゝ唐虞三代の禮ハ尚書
三禮ゝ載ゝ大政ハ皆宗廟ゝく行ゝ宗廟れ制
作大祖後の世れ朝堂ゝひゝく祭祀れ禮ゝ始め

神霊は命と共に行はれば天皇は朝神聖
は道は国一揆なり後の世に官職分れ中古
斎祭は堂に不ハ在ち漢土は大宗伯の職にて祭
祀の礼と堂に行る政の中は一職にて大宗
伯に準じて神祇伯と名付られぬ人事ハ皆
天のみちにて不なれば天地神明の感應なくてハ治
らぬ政事皆神明の命と共に行ひ給へば王道
神乃原なるべく治世安民は道にてあるべき
易に聖人設神道而治天下とのへる是なり

上古ハ淳朴にて礼文未備ざれの玉も我国も世の
初めハ皆神の代にてあるべき人は世に稀なりき
人の礼義ハあり乎漢土は広大にして
風氣多く開けぬ我国は出て礼文備りぬる
こと唐虞殷周の世に動りて礼文
成就完備して人道の規矩定りぬ我国中古の
世古今は後世にしてと深く考へ知るべし書紀
海と凌きて使者を漢土の礼義と後し
移しにて我国は礼文天地に参へて和ざるを
ふるう

かりそめ世の律令格式今もてはやす漢土の礼法
移されしうるおくいあげつらふ人もかし我国古より
神道といふことをもちて我国は神国なり其国
元道いかうくなどいふべきものあるべき
神は霊妙不測の威徳在まして天地ひとしく人智れ
及ばれぬ事をあるべきさふ身は社にて神は
万物をなどいふく神道の奥義なりと思ふ
ひたすら仏の禄ばかり神は我よりと
こそ神壇宗廟は殿堂をなす鬼神なるよ

似ず物精みさやかなるべや祭祀の礼を修して
神明の感應をおさしめ給へ福を祈をこそ
其職は道なるべし文といふは冠車服の品
分は上下尊卑あやいちはるさが人道の文なり
物はば文といふ礼楽の総名なり武
戈と止まれ義なり干戈武器は称号なり兵
刑の総名なり兵と云官と職掌と分ち
政令を行ふ所なり人主の天下を教化
治め給ふは父母の教をなすがごとくにして

拙育されごも不肖にして遽子悍奴ある時は時に
乖くまた犯もまるあり不廷の臣不義に陷る時は
兵刑の設あり司馬司寇官を設おく武備厳
海つぐ防もまるは拙育と偏ものくちんもおれば
兵刑も亦仁政ありされば治乱共に文武は政治の
全器なり然るに各別のものなれば思へるは誤
なりさしば治世平天下は大乱を理ものなれば嘆く
きり雖ども人の

一 夫王は素のものなれば試王は假名なるべば学問せず

とくれのみ支るかしもいるものば氣ムくしに地
学ひんは武道ありと人ありさる人は学だぐも
あるべ足し強く進めるどもんは進むる人の思の
かくれある下士聞道而大笑と云り志ある人
聖人もめ行ともまるとおし信向なる人は
教ろは石と地と稱るがかし生成ものさ理なし
りしと佛氏は後世勧めるく孝養ふ利益ものと
やうふ多が一附よ成佛きもんとせば勧ものる
人ものも勧むる人で思のなるべさ

一 右之ごとく人倫教ゆる道を以て君
師の道ハ天地君ハ民の父母なりと云て世間
保川人ハ世ハ皆我赤子なりと思ひ治て水
学の教養老扶遠れ禮とおもて天下を
孝弟を教へ孝弟ハ信を以て天下戸
人を安楽の生を遂ることなり故に堯舜之道
孝弟而已矣と云て又聖人の代ハ棄才なし
こゝろもち中の中なる聖人心不同如其面と
云て人の性質人々不同和合の生れあれ

ど礼楽を学び教化を修ぶ義理を通じ君臣
道を立て性質和遂の才徳成立なり其
器量を應じ大なるハ大官を授け小なるハ小役を
授け百官庶民ともに能用を不立ことなし先を棄才
都て無用と云て皆聖主の仁道なり事長ハ言殘
ちくなり

一 古昔世ハ他の国も我国も神聖の徳を在ハ
りれ根文倫ならざるなりと人倫もさぐなりと

男女夫婦の道も今世の道も只もバ和の
志さゝやかなれども多くは走らぬ人い人れば世の初
ち奇のゆうかくあり人のこゝろ世ゝれ朴
望ち道を興し給ひ礼文を定め給ひくれ
人の乱ハ断ゝ成定りぬ今にくも礼文をそ
業問とゝ学ひ学ハ男女礼ゝ欲ら始め礼ゝ
文武解かく切りと蝦夷遠旦の風俗礼ゝ
切りゝ学ハ唯世道定め給へる古の
こゝろをゝ学ハ假よも聖賢を疎ゝ思ゝ

一

身の上ゝ天地神明の冥罰あるべきとゝ思ゝ
一学問ハ学ゝ叶ゝ地ありとれど我身ハ年老氣衰
たゝバ力ゝ添とバ争ゝ業金ゝ玉不孫
不成富ゝ成ゝ人ハ行田舎ゝ生立ゝ人の
智慧ゝ人恵ゝ人ハ頑ゝ田夫野人ゝ
都ゝ出ゝ人ゝ交り素ゝ礼ゝ学ハ光輝ゝ智恵と
才もいゝ客儀ゝ地立ゝ礼ゝ人ゝ只ゝ
市ゝ住人ハ商賈礼ゝ村ゝ住人ハ農家の風
ゝ大家の人ハ大家の風あり小家礼人ハ小家

の恩わすれ難く喩へば生みたる親の人は唯かりそめに
かくこうふも成立ることは祖父母の教ゆる
唯習ひしれるのみにて世を渡り身を立ることは
なく又子孫大切なる者はなし況や先ゆきなかば
ましてその生立ち身を不肖を怒ゆる生立ちなん
これ実に先祖なるべし祖母は孫先ゆきなるべの
んとて今日いくとしひとつ内よりもかかる
なまじ嘉肴いで美味なる恵物絶熟し父兄の
教ゆる人の教ゆる人の教ゆる人の教ゆる

才云能ましくんざるべしおしけるば人は後指され
世は侮りをあまねくして行末は家をも失ふ孫ことに
ゆゆしきかの孫へぐきめるはなくて先祖の面
ぶせよなどいひくと思しかるべし我が
ことはいへ先祖の遺業なれば君は君の道を
の用ひもてで世をうさがるべしたにかぐらく
なさば我身は不孝の恵のみを先祖へ不孝
恵へは不孝なるべし我して悔をとも及ばず
子孫をで孝ぐの教へざるべき

一

学問ハ代々皆学ばれ昔ハあることも学えざるなれど
世ハ世まくらの流り新ハ新まくらの世と開るなり
なし今時学問志ざすといへども稀
なり悪きハ美し武義などハさもあり学人学ばれ
て人並なる地を相なるべしなまじひ
学問ばかりハなさぬが増りぬべきなり曰聾人ハ五
穀ハ不生禽獣の肉ハ食ひ人と成る者
美の人と茶麦と人と書人と成るなり似ると
茶麦ハ味ハ違ばかりなるべしこれ

一

見るものもなく物と見て人の命と續く
物なりと語ることもよも信とハ思ハじ聾者云
以與乎文章之觀聾者云以與乎鐘鼓之音と
いへり聞人なるしるしなるものなきぬ人と語る
道なし云道のなり
君子ハ道ハ嘉善而矜不能と云り嫩く稚人ハ世
ハ道なきと慢るかなるべきなり曰天下之民皆
ハ仁者ハ人間なるなきものハ弟なし弟ハ
孫ハ慢るなもなし世ハ去る者なり道ハ片端と見

く定式とかまへ我只くるわを又なさ玉ひ給ひ
ものいひ給ひ善人の者をば謗ル者をば謗ル
人情の見聞ハ喧嘩もとふ仏ハ儒者を連れ先
生れ給ひ先生ハ天下ハ天下ハ民の父母なり
天下ハ充満ス我子なるべ善も悪もなりぬ
なし悪なるべ悪と善の道やあるすべきぬ
ハ誘ふこと父母のなるべ善、かまへ聖賢
の書と我見識より外ハ仏ハ偏僻の道理を
ものいひ説ものし人と謗り世を謗りてくハ文

兄弟上とも孫ハ三代ハ後ハ世もなし人も
なし道知ル人ハ世ハ者ハ人ハ者ハ人ハ者ハ
相なり学問して邪ハ学ハ学ハ学ハ
ことハ学ハ学ハ経傳ハ文句をハ聖賢の云を
述ル微妙の理を説ハ奇物を好む類ハ
是を重人ハ学ハ儒ハ教ハ学ハ
学文ハ学ハ教ハ学ハ学ハ学ハ
ハ学ハ学ハ学ハ学ハ学ハ学ハ
羅ハ

一上古の中天皇も本朝も書傳に記せる不と見
るふこと人ハ神聖なりしども文宣王拔俗合の道
を開けるゆへ博く礼義とりこめ給ひ
つゝしび今時の者夷狄俗なる堯舜禹禮樂
と造り人倫を明らかし治国法を定め給ひ
ける義世に規矩となりぬ世に生く小愛ハ
あるとても堯舜の形を學ぶと不能是皇
極の道なるゆへなり本朝ハ天智天武帝
淡海公父子當時賢臣達人と造り式を

作り格式を作り庶の禮義を移しく吾
国の人倫ハ法を定め治国ハ道を建給
今ハ広く其軌範に循ひ大綱大法ハ
まや及ぶ所なき文宣王衣冠日用ハ法物風
俗云語ハ動もまく遠く中華の式なる
漢土と吾国と異なりとハいろハ小異
を見て大同を不知なり国史世説漢
朱由と寇め異国の史とハ合せて見ざを実
と知べし本朝中華ハ解ハ一氣ハ国なる故

竟葉の規矩に従へバ能はざるを以て必ず
古今一轍(テツ)なり然るに昔ハ室町
殿武士を召抱へ給ひ武士ハ武家
上代の武士と中ハ法度ハ軍法の大小を定へ
人数ハ多少を定られ武役として武士ハ
而の士卒なり武士ハ被官と軍団(ダン)押領使ぞ
家臣なり武士ハ家臣の内なり家健ハ武士なり
去と撰び武藝を習ひ家臣ハ武士より撰んで
京に上せ四府検非違使等ハ武官に属して當

八藝衆の中と勤め事ある時ハ追捕ハ盜賊と勤む
去と以来ハ大番と又ハ番衆と称ハ
孫及人ある時ハ京より伝代の大将軍を出さる
大将軍節刀を賜り諸国より兵
勢くハ召筋れ国より押領使を召れ軍兵を
率ひて将軍の下に属し家役を勤むるを云ふ
云度の凡人なるべ平氏なるべ源氏の
第紙に大たるべ武義の召れ民間山紀伊
国の民野長瀬なり書るもあり東福寺記

等に記せる公文にも法皇源氏系家系等にあり、
八幡氏と業平朝臣妻の中比より皇威衰へ家
氏の文書に御徳なりしかば世と不絶源平
両家は皇族なれば皆文を承りて世々伝代あらん家系
等勲功稜々たれば推尊志く賞と賜る或田地を
賜り或は安堵し諸任せらるされど四府の尉
法皇より分掌ぜられ六位をおいるはるし強盗
繁昌の始め業分常流武者先よく侍れ
上皇ときに氏常流が来る六市流教在京きたの

労かく如くなるかぐ教盛と
賞敬し常流は公の上皇流教は先皇の上皇
と定られ（尺未詳）第年ふく父と別れ
多くは武士のよしにて又和田義盛は文
仮と重くて詠さしかざる横（イキホ）ふ深友を
思ひ立く才古びう況や庶民名を知ず
世の庄屋殿の老分多く田畠を拓く家役
と厚く勤むる者を大名といひさもうき者と

小名といふ所為正れ事なり猶金ふくハ
安倍なきかれ代の大小と賞歎せしかくハ
唱へしなり玉勢ハ玉目廉安兵を賞れ武士
ハ征伐追捕の役を勤むるなりなりしハ
追捕使指ゆるぐ者ハ一向れ武安ふく治
玉拵武れ事不逸今れ武家とハ実なり武玉
家の初大祖と稱ひ始ひく後ハ云方家ハ天下れ
ニ下くを云なり大名ハ玉ふく法度なり文

徳と被ぬ武徳と被ぬ天下義武れ目合ひく
在まもの昔れ武家とハ大ひと是ふ[illegible]る正
新朝ハ初ハ後ハ[illegible]ハ伝代ハ[illegible]
総追捕使とハふとハ陽ふくとハ守護職と
屋追捕ハ事ふもく濫妨ハ玉目れ稱と奪ハ
左国ハ地ハをまいも家役ハ事ハ[illegible]ハ勢と
神ハ稱ハ左国ハ公家家人神社佛家ホの
私ハ事と公家ハ事と制る

殺ふ事數よ八度と許して朝家と欲する所を
奪んこと北條父子曹操司馬懿が所為に
もつて又勝るる計略多く軍家れ境を圍し
上首既に力つきんとすれども天下れ武士日夜竊盜れ
誅を捕んと家人を興さんこと王臣仇家を
犯すのみにあらず及び屋敷を制し界を
論じ他人の所とかすめ稱れ世計を也
かで云事許法度なく世上の濫劇

やむ事なし室町家八芳也れ帝三種の
神器と帝しくを玉ふ在ませばさもと
思ふく京と去ることを不成東国八愛仇と
号し代定と京れど別立して軍れ下れ
小後八ぞ所也所業などのやさ武暴伝聽
北田倉武士玉命を掌ぞしかで上下盛
妨るく武威さへ弱るれば下を制ふれ
ずと不能大名也族縁よ大国と仇し

猛威と振ひ叛逆れ歩年く不絶應仁を
後ハ武士自由に散在し爭亂と事とし山村
已よりこれを云く郷家も亡び失ぬ武家ハ成敗
とも用ひ祖父ハ武士ハ丸ごとり或ハ
父を逐ひと殺し兄弟ハ滅し或ハ殺して
敵に降り殺人而奪害をなすも尋し
日本開闢未曾有大亂吳ハ中古及
ぶね程の事ハくぞ聞し君子有爲ハ云

義と知ハ乱をなし小人有爲ハ云義ハ知ハ
盜をなす是天下を保ち人民綏ありて文德
なくさら知ハ安治なる故と不能ハ多く
ハ亡ぶ災を招く逆金ちを伐まく又百年
ハ百天下一日も安きことなく萬民安堵ハ思ひ
なし是も強に非ずや武家盛衰記等に
云るにしかを見るふ或ハ大臣私の威と爭て
王家を不顧或暴逆ハ志と民と貪り或ハ多欲

小して賄賂を貪り或ハ色を好み酒に乱れ幸
さ故、かゝる者武備不足なるハかりて文德
不能なるか為なるか初より流技弧弦なると昔ハ
学問なりけるとも政治つとく事不顧など
学ハを以て濫たるかる事なるべし

一 文德の学さらに於ては武備治まる
要務なれとも武ハ文に勝さるこ
一騎こんぢく武藝ハさもこのとく学問ハ

いつとなくかくハいひし治を忘るゝ時ハ其
国必ちぶと成りぬるも是食足兵武信足
の三と一としてなくかるべき治国の要務とのもの
又子訴(ハヤ)帳(ハリ)爾我疾と記り又左傳ハ國之大事
在祀與戎と云りし経傳の所記挙くいとまなし雖実設ハ重代に精(クワシ)しくなさんハ我ら
必ちもとを保ん事も久し後世の君治る一ハ
武力と云ふとなるべき故治平なるときハ富貴と
誇る安逸を常とし武備と忘るゝ故なるべし

我が子なく世にも亡ぶるなれ共武士は武力のみ
強くて文徳なくんば掠め邑を侵し財宝を
奪ひ女を奪ふまで我身の欲に耽り国を滅すも安民
治せんなさ様を祥盗れ乱賊のと唱へ国を
も大様なれいづれ多勢をかるる強盗といふ
とあり本名義仲なれば朝敵と常しれば祥盗
といふ説しきれど家の称号なれば祥盗
とあり又一説の武士ふも祥武士なるもなり
又祥盗のなるもなり去手記之記

行乗四方と云人は器量も勇力も云双れ壮士
なくて名を名を和漢入道ふ也黄頭しかりも
あるなれば入道が用ふ立名とく又なく痛しと
者り今は結家の対四方敵日此の賢仏今日此
なくてあるなれさしく働く強く自ら酒を勧め
名馬を乗びく出立せなり天晴武士やなる敵
討んとくなるとく時人見られでさはなく胴腹
敵一騎なれば又左傅よ斎の陳不古くいく人は腰兵
なる人なれば生君那なるとなく物具しもあるが

ものなく能く事をも為なば後者どもかくてハ対ひ
ぶらまじとこゝ(で)君の臣ハ義なる
事をもよくとく白ひるゞ戰の場ハ動り金鼓の音
雷く動絶く孔りとなり四方の勇ハ陳ハ点ゞ
陣(キヤウ)ハ(ル)あり面かゝ(ル)ときハ群盜と武士と勇敢ハ
ゆゑかりるべき恥(キ)ものなり君子者勇而無義(レハ)
義為(レ)乱小人者勇而無義(レハ)為盜(ト)いへり唯学問
をもく義をきいめたきことなり依(リ)於仁遊(ニ)於藝(ニ)
といへり孔子あるゝバ武藝ハくも文藝ハくも孔

一

子よりまさる携ハるもの
昔ハ武士ハ学問ハなりとゞもよかりしといふ御ようさる
事あり乱世ハ士ハ蔭(カゲ)の松ハ大きく性よき者
なり生ハ主君ハ貴ようさひ死ハくも部屋用人
迄切ようさひくも器量ある人ハ事ハ隔人を怨(ワラ)藁と
出をもつまゞ生実なき者と縁事なゞ又跡者
切ものゞとく生器量ある人なるゞバ現在ハ栖と
見ものゞ氏族(スジヤウ)ハ体(タイ)裁ハ容(ヨウ)貌(ボウ)ハ年齢ハ指ゞ
筆くもゞ役用ハ加なゞく器量ものゞ

されば治世の人れすくなく世代軽く人をかるん
ずるれば一分ときいわ男と立く孔めるこも密立
孔しれと孔後の名まぐをもつ加人撰自然と
剛直なり此日は命を計らるべば而仕始れ思ひ
切く甲冑を被り銀若飢をよ切とぬとバ
飲食色欲の事もわきし言れ合ぬと孔くもれバ心
疑りぬ虚言もいつべ風儀賢素かして風興夜
寐後儀を整立志しる是義玉の言士れ風俗
なり昔の俗風をを此まぐいを人も在し今かくも

かる風儀の人あるバ未聞とも吾ハ之と
学びそるといりん
爰れ出ハ多のをきは不新とも今れ対相日か
ら記市代ハかりれど我ら人も常れ事とおもへど
改めく楽しとも思りと熟をさ昔を楽ぶれる
神武天皇れあり世れ常ハ学ゆるもの明君
ゆも場り移り聖徳をくで在まり人を澤民心
ゆ入こと深く今よ武く二ゆ條年日月ゆ新く
ゆもバ移るゆハ他のゆ記傳ゆも見くること

それ〻生涯の事は史書も詳なるべし民俗も
醇厚ゆゑ改も寛容なりしかこれこそひやらもく
墓〻しく今の世より場りやしらん場らずやわろしんぶ
し後の世は今の世代つゞけ〻なし紀氏の
古作日記を見しに小貴之古作の日記任果く京より
ゆくて海賊をしさ海ひく幸さく那波より到りぬ
南海は天子の宇下なれ日は微官より此ぞ
海賊の畏あるべ尚は事をひやらもぬ将門
純友が乱より後は世の中静なるべ小康はなれど

遂ひて絶かは為めの不言となり禍の基なるべし
女の妬心は我寵愛の衰へんことを恐るゝなり男
子の妬心は家才徳の彼より下よりなんことを嫉
ふなり人は勝らんを好て不吉の思ひをいだく
思廉の為りかくべきあるべき賢士善人あらば揄揚推挙して
揚推挙して国家に用ひ世の助をなさん
しかるに彼此一人の善を人の過失を責ずして
多人の過失を責ずして民俗の辱世の出すと
なれば人は為に為を為善をなさんと欲

あらべしかぐあらハ我力をもて不及とも治世の使世民
は福となりて天は事ゆゑなるべし人の善をもて行ふ人は
福をもとぶ心ある人ハ天之災不可遁
一悪君下流而訕上者といふ当路の人ハ此をあげ改
ゑを訴るハ大きなる僻なる色一人唱之万人和
之ときハ礼のかなり事君之道有諫而無訕といふ
又内臣君過外揚君美といふ美官人は邪佞あり
政を不当主君の福とも不成と深く思い人忠義心
不起已ハ上云上疏化は漏さんと上は遠きるけい
あらべし不形しとハ懼は時務を誹謗し

拙かるを知れ古へ詳なる事ハ知がたし上代
を古淳朴の風俗なるを生ずるを治りなん中ハ
なり後ハ郡縣なるべし承官ハ
分ハ下れ屋官ハ大形ハ古官なり古官ハ其
列の正人なりまつらうれ郡縣祖なるなれ
事ゆゑ変なる中ふもあやしきハ周公ハ淫楽
と俗人なるら中構れ事ハ正されざるハ支婦ハ人
倫ハ始なり朝議いぶらいぶり裕と侵しく
和とゆゑ今の世ハ人ハ羞畏をくせぬ事をいふべし

事ふしく歌はもとより系図なども書き数へぬ世れ
書へ玉の記も多くハさひはらうで起りし封建の
制ありてそこに訴る事もあるべしと云ひ武家れ
代の制鎌倉室町も今れ世に伝る拙なるもど
大こそふ異なり天下の武士ハ御家人とて恩ふ
敬在し仮ハ其文こたとへバ多賀の城ものバ
義業ふも小田小も、おなじも南海ふも義ふも
典へ私の讓状よりおる家敷れ判鑑りて伝へし
なり守護くも恩れ譲状として是を事判して

家役を勤しふこれの是今れ恩賞大名の恩ものる
とハはなり意仁の後らうこれ討滅る人も恩
を保ふよハりぬされバ外れも法も一統せば
世の美俗の者なるべし懲しかし世なり
ものうこれ三代ハさしも聖人れ大業なく古今ふ
類なき治世なり今れ御代を〳〵学徳せば使言
ふ仁〳〵ものも尤なくハ如し聖人とバ仏善薩の拙な
第元三代とバ極楽世界の拙よりも聖人世よ治ばバ
日の出るが如く世をのびら治まる聖人れ家が

人一人も教ゆべき事のげうかつ拙よ学問れ今より
人界とハ仏も仏ぬるゆれ拙よいうとハ理学者の滅
仏の道とそうくいいんとくいうゆるいぐさるゆれ
あるべき先王ハ天下れまるまとハ天下の事れ治
治世安民れ治法のかゆゆゆしゆ衣冠名主れ大き
なる者と思ひ給へ世治り民安くハ聖人の事業
成就ぬ文と仏の思ひ給へ聞き今より治験と
国の政業と文らず国の世まとるゆハあるほ
孔子孟子の先やの角のもしも世治らず文と

就もるゆ行者と就もる治行人倫乱まと四民
苦しみ乱をばれまを就ゆげさく今の世れ拙よて
事乱とこれゆひ給ひしゆ四民安くハ行とう
乱ひ給ひ乱さ拙も　神祖ハ聖賢ゆ乱ゆ
行一生の事業天下を治め給ひつるゆハ孔孟の
乱ず行よ北ぞ先我学者れ日といいぐ其
門門代ハ干戈弓馬れゆのれハ技業場放逸の
事のこれとゆ思ひ給へ人の文学儒道ゆと
あべき惺窩（セイグワ）先生ぞあり給ひきぞ拙門人も

おはしまし一生中は羅山先生を招き給ひて親近し
給ひ今也地球の老者にまで神識をかさね給ひ
學問を信せ給ひしとかや常に書籍を讀み
給ひ且日本朝の古書經傳子史記録等
を集め給ひ江戸の御文庫にも送り給ひぬ今
の世に傳はる今式本紀文粹東鑑なども皆
此御時より世に見はれ給へりぬ又京南都
諸國諸寺の名僧と率て讀書に召され御前
にて論議法問をきこし召て合証賜りて御談に

戦国暴虐の風俗を文化温柔に移し給ひき
太平を基ひし給ふの御恵みにて在ましけんと
今更あふぎ奉る中にも忝き大坂の役御上
洛の時にしも干戈騒擾の中なるに朝家秘府の
御記録を請下し又廷臣諸家の典籍など多く
取りて諸家を撰し法令を定め給ひて
いかりしも天下を保ち給ふにても王者の御器量
にて在ましける御撰にや天下の大法悉く備はり
当今百年に餘りて國の雜の時も今よく

磐石なれども学問日に開き君臣父子五倫
の正しきこと昔古小越て中華朝鮮と及ぶべ
き等なれ事は書博くひろく人々ぐ志らぬ
ことなりもて所詮畏れ畏の命をきびしく
なりて天下を制し郡県封建(おうけん)といふことなり郡県
なれ事は昔よりの法侯を建て天下を分配して治む
るを封建なれ制といふ封建の世は士大夫も世禄也
君臣諸侯なれば君臣上下なれ恩義厚く一
国の内一家なるなり是三代聖王なれ天下と

治め万民を安じ給ふ法制の骨格なり人倫五常なり
国合と相あるが如し封建定まれば天下ものびらかなる
故に非封建仁不徧(カラ)於天下(ヒロ)ものびらかに開ぬ原ふく武徳
成就し給へば天下ものびらかに封建と定りぬ其
世と為給へば何名月光と高貴有那さるを分
さりなりとちなむ士庶らふ貧窮を
苦しむ人多く世と為ものびらかなるさを曰苦を
経ものを楽を不知今世の貧窮も乱世れ苦患と
なりなべばいか程の楽しかるべき世久しけれども人口

增かして物不足と人いへどさハ思ハれど和漢の史どもに見るに仏様ハ乱世にてハ治世にハ稀なり況も知るべき唐の古今世の計系三千餘年間豊なる強盛り乱世ハ造化の為虛(キヨ)して人類減耗(ケンガウ)なれハ家数諸物も同く減耗を治世ハ造化の氣旺(ヨウ)なる故人類蕃昌(ハンシヤウ)なれど諸地も同く蕃昌して人の多ひ不足なし杜氏通典明史等で天下の戸口を記したると考へ見るに漢桓帝永壽三年口数五千六百四十八万六千八百五十六人唐玄宗天寶

十四年口数五千二百九十一万九千三百九人明世宗嘉靖年中口数五千五百七十八万三千人とあり是彼邦全盛の時にて負数なり此乱世ハ戸口皆減ぜり見と思見もぜ雲へバ豊年の田地と稲よく生しかどとも一所に田に生る稲ハ別に出く中華の地に生ずる人も古地和蘭の別なる二見くて古今に差ひなし世久しくなるまバとく法地に越く人類のと蕃昌して書ひ不足もなべきと北ぞ唯治世久しくなるまバ人情驕慢(キヤウマン)なく信義

ふ奢侈しこれふ物を費すを奢侈極まれハ財力
尽るなり天地の生育不足もなふ此ど人事のお
ほふくあり世禄制度ハ急ハ国窮まる
ぬとなり禄制度ハ上主者より下庶民に
到るまで上下貴賤人倫の別を居所衣服一切の
物まで格式をなすを品と分かつ品治世安民れ
道と言ひもてなすなり世乱れ物ハ仁政天
下に徧ねくなり第中ふ第甲冑をきるなり
冠裳衲服とく貴賤に章服を分つ今ハ王

者も社祢とめも庶民も社祢をきるなりハ
貴賤をなるたんをふで財ふとめで庶民も主者
れ業難の苦仙ともなる混奢ふ奢りて今ハ世れ
ふ財ハきく貧窮と苦しむなり合と越と奢ふ
ま仙の都ふ貧窮ちん者ハ多をなるく物とく
輙くハ人ふ物をもいれ社の風俗ハ今の法度ハ
昔れ主者ふ物ふべし今の大夫ハ昔れ法度ふ
物ふべ貴を見ま仙く是賤れ奴隷きぐ士達
れ仙して上蔑めけ物ふ貧窮せざる人治世れ

德をむ奉倹の勤倹はとうとうてるを規模
と為て緩急ともくとと相と為て濟まさ限信なり
佛国窮行恐るべきは物ハなしかく人窮るとハ濟を
こいて奢る者の辭として奢りて用を省さん
たのみ財寶を貪る財寶ハ半減上下お惑して配
当しる拙なもの合る越く法付ハ必くらぬ物なり
其是ハ多く人の財寶とも立くも元を孫ハ上を
ハ下を剥くたしてハ上を孫めくるるとも孫む
ともとを見やすこと巧む法ハ限信大ふ惑くかく

後義廉恥れ四維ふ人士ふるこ世ふ生
きしく人ハ士のふ見ハかうであるものと思ふ人
上下交取利で玉充ふんとふ易ふ事小
てなり

一

扨ものをバいふふして立盛をべきや曰制度を建ム
事ハ天下を保ち治ふ主者なるでハかうふ
これ傳く学問して世くれ制度を考へ古今治乱
の源(ゲンイ)ものとをべ世くの君臣の関係を鑑(カンガ)みで
いかく知識厚くかく付名お慈の計ふひも

なすべし礼記王制に三年耕而有一年之蓄と
あり是八一年の不幣と四分として三分と今年の
用料とし一分を蓄へ以て飢饉の用意とし
三年蓄を八三分とし一年を用料とし残を以
三十年にして十年の用意とし其外を以て
こゝろ又量入以為出といふを八一年収入
の不幣と云て残りを以て諸費に充て
足し申さるゝ様に拂ひ出さるゝもの
なりといふ云一年之蓄国非其国と云て

一年飢饉に及ん上下困窮に加へ又家業を
分限お類の人に成て後家を離れ
て家役を役旗役槍等を務じて出さるゝ
今武士大夫にして耕さゞるべきや先ハ近昔の風
俗を聞かるゝに上古ハ武士ハ皆農業
を兼て用ひられ居申候と恭倹を以て
事とし質朴を以て先とし風俗自然と恭倹に
なりゆくべしとの事ハ彼是問の力なく
して成難しかし人の耳目を驚さゞる様に
風俗を改むるに法令を拵へ教諭
する様に

学問にこころざしなくして大道に背き人倫を
昭忽にすごして人のお数に過ぎざるを恥
ず

一 古人は名を改めず後世に伝るほどの働りま
さりしかば世に出ずしてくるしむ事を思ひ人も其
人なきことを世に窮なる事なかの莊嚴なる酒
器物に喜ぶの人事昔に比せば拙くとも十倍せ
むさんば昔一年に用る百万の費計者しく人ハ
十倍して子孫まで不足なきなるやと思れ

物よりおろかなる人情なり四五十年以来年々はたのげ
さいけとなく十倍にかせぐ昔ならねど昔ならぬ
さもなきかの如くにも父祖代の事を今日に引
合せて見る人十倍なるやうなれば諸事まかり
成ぬべしかるべきものを世に出ずして
世に思ひつくことを口惜なるを歎くと今世の
昔世の如くなるやと水炭なるべし困窮なるべ
不屈なることを美く世に出ずして
富家の金を借りてもさぶ丸まぎれきものとなり者

むべき人とも顔ぐりれとハ行とも思ひぐしさ消きく
富貴の業相(サウ)して立ぶ思ふるなどてこそいと祝ひさ
事なき官祿ゑき人ハ多くれ用意あり
一已れ士ハ一已より付くれ用意あり
羞ちうべなるを女れうべ所ちるの数へあげく
先ず士れ羞ありと思ひ人ハ怖きゆらうべし
最明寺入道殿のりけ味噌と日々一の者あり
とく汁飯をしうしなり誰ちいうべと思へども
さ世の勢(セイ)なく我獨もせうを面ぐきるれ

物ちなさしと思へバ人ハ行き人れ道理ありせま
じと思へバ世ハ行くれ理ありぬ必ずぐ叶ハぬと
思ひぐ人の耳目を驚ちさぐるれ所の計ひしらも
を尽しれもなくて安堂存亡れ様と案せ吹嘯
連を深沈せぐ藝へぐ学ぶ人れ貪ハ人
業ハ若(ニガ)しとく用ひぐ一日の安きれ軽く職ち
命のそうれ志しぐ所ひしく死亡の患ち強ち
と志うと思ひつぐ安きと遂ち業ハなしよかる
なし

一 倹約と節倹とハ節用者財をもとめ不用を省
略し給ふとハ経費をのべ減省するなり
格と人ものを尊ばして唯財用を省人となるハ
吝嗇の形よりかく変ず吝嗇とハ財を惜まく
走りさるものなり蓋し財ハ人を換わり財ハ人を歓
ものなり然ると我のみ食ばんとせば人ハ忽
ち出来る人情離るる所の方さへ
賜しかしば論決よ節用而先人との為り節を
用ハ人を換るる為なり故に用を節

とるべきハ婦人ハ法度ハ上おくいべ保国安人せん
ためよりこれとるなり節用とるべしあふ人をもこ
るひ人情離るべ所の為のあり人大夫士以下一已れ身
れとこくも皆同じ人ハ上ハ設ち人食物
むとこるハ深世ることるハ賊者のくあく下者のも
あり内ことのあるべ物ひ形ち自然と下者に相
あり士の知ることなり

一 婦人ハ仲といふ人ハ奇の如ハ貴族大夫の如ハ極
めて節倹ある人なり婦人ハ一孤裘三十年ごとく

一の書を三十年まで不敬社の人なり或は景云
家も甚だ貧く禄も豊なる方なりか倹を過ることいま
だ見ず墨子奇の士なり處士なり偏憲なり敬名れ
史と称する者七十餘家ありと雖ども孟子に墨子
が倹ハ吝嗇なり悪むべきものなりと云へども
たり又孟軻ハ流湯槽を後業といひ人常に
華美を好めり或は例の英業の衣服
してお仕しなるを新見珍しき袖と
引名り切奇なる事古記などハ大名なるもの

人数多く扶く家政をもて用ることを大きなる戒らしめ
新親迫の人とかく厳重に戒めるハ孔子
弟子の者りて懲しめりんこれをもべし賞罰不法
事なるか又云張休といひ人は善悪の事相なり
志ハ新なるも近りくこと家の女れ紡と織く怠め
て工るを見てこれ人と為りて又頭を葵と称る
がよく生ることを見てこれ抜業なるを曰我家ハ面語
わりく不足なるのみ工山関史と引と辛りんやと

ひし又大学ハ畜馬乘ハ祭ハ鶏豚伐氷之家不畜牛羊ハ礼ハ儀子ハ言ハ
倹約ハ奢ハ驕ハ利ハ勇ハ益ハ卑
者ハ妙ハ巧ハ汚ハ下ハ
清ハ人ハ怨ハ近ハ
あるべき

一

茶倹ハ嬉奢ハ嬉表ハ茶倹ハ奢侈ハ
遠奢ハ正倹ハ茶ハ下事ハ下事ハ
ある人ハ質素簡約ハ自己ハ財用費ハ

一

れ事ハ好まず倹ハ去ハ遠ハ
後怠ハ神ハ人ハ
ハ財用ハ動辨ハ
倉廩實而知禮節衣食足而知榮辱ハ
学問教化ハ
斯濫矣ハ貧困窮ハ志ハ奪ハ
ハ貧困窮ハ
同ハ士ハ老當益壮窮當益

国(くに)といふ物あれども西かしりき学問して孤と
志ゝ(こころざし)ありても道義を達せず貧苦も
話にかるべし貧して楽むといへども不義
財を求さ者ハ富貴(ふうき)なれども義(ぎ)なし貧賤(ひんせん)なれども
多く人の上に為れんハ口惜き事なり

一 賞罰ハ法場(ほうば)の礼(れい)なり罰あるハ必賞あり賞な
きに罰あるハ道(みち)にあらず善悪(ぜんあく)ハ君(きみ)の勧(すすめ)なり
善ハ忠臣(ちうしん)なり之(これ)賞(しやう)なく悪(あく)の勧(すすめ)なり
人倫の義(ぎ)も忘(わすれ)ざし懐恩畏威(くわいおんいい)と云(いふ)忠恵

なけれバ畏(おそ)ろしきなり善(ぜん)ハ恵(けい)を懲(こらし)
きあり賞なくして罰ハ人ハ却て上を怨
むるなり善(ぜん)なく恵(けい)なく威を振(ふる)ひ衰微の基(もとい)なり
あるべき為(ため)君(きみ)一日(いちにち)恩(おん)指(さす)恵(けい)百年(ひやくねん)身(み)と云(いふ)物
婦(ふ)なり人(ひと)ハ所(ところ)まじ賞(しやう)なるべきなり
過(すぎ)やすく賞ハ常(つね)なる不及法場(ほうば)の礼(れい)なる
ハ所(ところ)しき法なりされど福(ふく)美福(びふく)を去(さり)福(ふく)楽美楽(びらく)
於去憂(ゆう)と云て天下(てんか)を治(おさ)め世世(よよ)福(ふく)
を得る人ハ必(かなら)ずべきことなり然(しかる)ハ学(まなび)よ

楽しかるべしこれ郡縣の世よりこれ田禄世禄
なるよりいまだ久しからざるに世禄
の世は上下皆ともに怨じて田禄をうく者は
有て賞慶を行はるゝや賞慶を行ふべく賞慶を
ざるべきなく我獨人に越て勤労
を為ることなく天職に怠る又必賞慶を始んと
なひ幸若くは人を毛雑と冒し幸用を使て勤労
ども賞慶をしざるべき人と怨を世と怨を張りて
鄙しきなるを恨まるゝや為人臣止

於義と以て一位君臣の義をいたすべき事にして
爵禄と離るゝこと為君に命と奪る人あり先
王の義なき世禄の制ハ愚不肖なる者
の用ふるもなきに代もなくして爵禄を賜りて妻子
を顧み安楽に世を送る先祖の勲業とハいひな
がら我身を省みず仕官せんを仕官せんを先祖
の禄ばかりを君量わりの第代を愚れ上報ずる
の健なる者いかるゝ幸若して役用をなすこと
なるべきなれば禄の義とも共に治世の楽

みとも志ゝめなり禍福を福憂患を患て楽
を罰なさい業と思ひ人安うるべし
勧善懲悪ハ凡俗と云ものゝ為ゝく業罰ハ古の
大権なりしかも古の賞罰と刑名法則ハ賞罰二派
なり刑名家ハ信賞必罰と云賞罰ゝ云ひや
うして世を治めんと云ゝ功あるハ信ハ必ず
信と賞し罪あるハ一すも通さず必罰と云ひ人を
功と励ま罰と恐ると云ゝ罪を犯さず仁義を
を速ゝく成功なるべし一路と見なさるゝ

不義ハ罰と恐ると法と道ゝ為ゝく不義と為ゝ
居心ゝ為ゝ犯ハ法と為ゝ犯ハ道と為ゝ
ゝ為ゝ功を勧ゝ為ゝ義ハ為ゝ為ゝ業と云ん
ゝ為ゝ一道の法深と為ゝ為ゝ後の禍も亦
ゝ大計と顧ゝ為ゝ君子懷刑小人懷惠と云ひ
上刑罰と恐ゝ為ゝ威して治めんと為ゝ為ゝ下ハ上と敬ひ
ゝ恩恵と為ゝ為ゝ為ゝ敵と為ゝ為ゝ為ゝ
ゝハ為ゝ素ゝ為ゝ刑名家ハ賞罰と用ひゝ一足天下
と為ゝ為ゝ賞罰為ゝ為ゝ為ゝ後ハ世も初漢ハ

又山賞罰用ひらるゝ人賢世運短くして人甲乗人信言
かゞ学問もわり武材もかりさしも彊国ありしかども
愛社おくやしくと亡び君臣も義士もかゝりひかり
星く治めらるる所よ此どや賞罰も世ひろまるとバ福よ
しれ多く治め給ふ蓋よ人をしび賢れ世ハ拯育と
先ゝて罰とバ不仁己してど用ひらるゝ書よ文
王明徳慎罰と云ふ文王君徳ありしかど
治もの自ら乱れ志ありり明徳ありて足ぬり
備大學よ文王ひく為人君止於仁とあり

文王ひく徳君徳とハ仁ありて愷悌君子民
之父母と云ふ父母のゝくくと治るゞ君徳
ありり父母のゝを育ふ者裏の不実あるべき
喜ぶと怒るも皆実ありてハ仁君不得已
志くひりく罰いを怒る人もなく世の戒よ
ありと父母のゝあるとバ十かゝれ人ありと下教よ
れ必く実ひちるゝ行るとバ賞罰を設ひるゝ
入まゝさあり備罰を怒ゝ行ふとハ罰ハ必徳ありり
我身よ文くいやるゝ行ふとバ祝も嫌ふ人ありり

婦ハ子を養ふ事なく世に臨むハ子を誅まてたのり
信さ民新つもバ玉七ゞかゝ罰ハ玉おれ大
事切り時もとりハ大ゆめして容易ハ行ぬと
切り罰とハ治もるハ毒素と心病と治もるく仙
きりと病ハ食くも毒氣遍身ゆめ〳〵く身と七
きりの罰程くハ上と恐ゞして玉成てゞと
ゆハ清もり新んあるやと罰と心治りんとるハ
秋と〳〵決と撲がゆしく念もあるりとト又ゆれ
時とあるゞハ上の憂とトゆも憂へ上の喜びとト

かも喜ゞ上下一體和合して吉祥ゝあゝゆ山
面ハあるゞ面ゞき中よりと宮き義と志と面さ
ゆるましゝるゝ去あるゞ人ゝよ恵む下のりそ時
これ用ひ己して罰とゞさりて元て世よ君子ハ
ゆるく小人ハ美し賢者ハゆるく愚者ハ美し
初ゝよ修ひく器めゞ終りゆまく氣の休まりハ
あるゞゞゞき罰り敷小道業賢才とゆり仁恕
よ一あゝハ人ゆ道と初ゝゆハゆるゞ情道
ハ一ゞもゞゞ分の居ゝ不ゆ生く長ゆあり為人

君ト止リ仁ニ為ル人ト止リ敬トスル忠ヲ加ヘテ
賞ト不思ハ臣ト義ヲ以テ忠義ヲ收ビ勤労ヲ感
ジ慶賞場ニハ君ノ道ヲ以テ人情ヲ
ヒバ喜ビ奪ヘバ怒ル婦ニハ好ヲ生ジ悪ヲ死ト
婦ニハ好生悪死ノ天性ヨリ君ヲ小人ニ
分カシ給ヒ君ハ義不義ノ分ヲ明ラカニ失
與奪ヲ顧ミズ義ヨ後ヘ行ヘハ多向ノ力
義ノ徳ヲ以テ用ヒ難シ器ヲ
あるとも不出義あるとも不勤勞あるとも

不義ハ賢者ヲ以テ進ムヤ不肖者ヲ以テ加ヘ
ムヤ大徳ハ大官大祿ヲ受ケ小徳ハ小官小祿ヲ受
ルハ聖賢の道ヲ以テ財寶無ケレハ多クハ
主侯の寶ヲ以テ殷の紂王ハ多ク寶玉ヲ
面ラシ焼死シ鉅橋ノ粟鹿臺の財ハ皆人
ノ寶ヲ以テ主侯財ヲ以テ財ヲ求メハ必禍ヲ受ク仁者ハ以
財殺身不仁者ハ以身殺財ヲ以テ財散則民聚ト云フ財聚則民散
財散則民聚ト云フ節用而生人散財而聚民
ハ保世の道ヲ以テ賞罰ハ政治ヲ

一 近世能沢行秉と云ふ俗士の著はせる政治
録と云ふ書あり吾等寡聞なれども少
しきものとなし玉と雖しけんを近く見しに
城郭廬舎田野溝洫風俗も検勘なりがふも物
識れる者なく有弱くて覚なる又集義和書大
學或問などいふ物を見しに名の下虚なれば理な
きは精しうなきを対の設令なりなく書なる物
と見しに佛法の邪道と排除し聖人の大道と
言ふしるなどいふ書れたり生人れたり

事とも思ひ是民衆人の偽托なりと不審しなれど
事を彼の偽を通しるなど世に著く言くいふ
切とバ流しなきりんれもなりバ主設の名ハ
さりしとて思ひさしと一代の名儒なりと吾が
口まくかくハ出てなし流れども守はるもあるバ
いまるら佛法の行なるもあるも敏達の朝より
示年よ出えなく著陸玉を頭方く著案し
弱へて闘玉の民行と云ふ不知二世安楽の
教をなりとなく美ものも幼なも南を阿弥陀佛と

唱へまつる君ふも親ふも久しぬ程なりかく民ふよ
淡ろもバ百年ハ仁政をもしなるべし玉
殿ハ物を知くこと政ハ行ふ程なるの聖人
ハ大道を行ふ君主もしなるべし不害武をハ求めよ比
へふり聲へバ小兒の類とふねるうんよ類よ場
ろ物を無へバこと放ちもせあの用捨もなく
奪ひうんハ豈父母のふりうんや且仁政を
行ふ人ハ佛法の害ふあるに仁政の澤ハ及ず
世ふる害ふ不及ものハ消滅すべきなり

河野若樹母藏書

周南先生為學初問下

一道ハ理の名なり理ハ形なし道の形ハ禮樂
なりとハ禮ハさもあらん樂ハ禮と
同しく道の形なりとハ何の故ぞや曰老
釈ハ皆遁世ハ士なり老莊ハ玄道ハ世ハ
生ハ釈氏ハ云教の邦ハ生れ生れて人生
得ふ方なり故世の名利を懲こと勿を捨

世を遁れて山林に生を深度せし人の真道
云欲を去り人欲を制する者は心を治むるを
治むる者は理を窮め精粗を分ち粗を捨て
て精微を守り形を捨て心を洗し情を
絶て理を学ぶ凡世諦は皆云用の名地(チヤウブツ)也
欲を遠ざけ人を乱れの具なりとして法相を
放下し一人を堅固に守れるを儒者もこれ
理を究つきて心性の修行し心学理学なと
いふ学問出来たり是より世界理窟と分れ

理窟世界の見識に成ぬ吉楽は唯云用の
長物とて是を忌て治め民と
安んぜられ具なりと部人喜べは歌
歌へは舞と相ともなし革木絲竹の音を
人変と助け吉曲と、かざる自然れ人情の
礼(ハ)禽鳥れ去場に感して啼るが如し
故に吉曲は天地の和気なり聖人既に礼を
制して人道の規矩定まると立て規矩定
まれは自然と方正(ケン)敬悟(ナリ)の意なりて嘯

ゝよ成易し於是樂と制して天地和氣
と成し人倫と調へ雜和し情と成しめ好
樂記に樂者為同禮者為異同則相親
異則相敬樂勝則流禮勝則離合情飾
貌者禮樂之事也と云う總して先王より
道は我智恵と云道と制して人と導くよ
此ぞ人情の好む所なるそれ文と
成く教と云ふ。然ども人の弓矢と弟ゝ
は禽獸の所牙あるがゆゑ天地の用具なれ

世の初よりやあるとうん先王ましまして文と
なして禮義と教へ德行と書よと明ら
へ是書曲も天性人の好む所なく教と
立ふるう樂記に云夫樂者樂也人情
之所不能免也樂必發於聲形於動
靜と動靜は舞の事なり檀弓に人喜則
斯陶陶斯咏咏斯猶猶斯舞と云う陶
鬱陶也懷喜未暢意と云う喜氣内に蓄
へく發ると欲るとゝ云歌舞は人の喜心

いかゝ殺するゝ是則天地の和氣あ〳〵て
生育の德ちゝ聖人の仁德なり故ゝ樂記ゝ
大人峯禮樂則天地將爲船爲天地訢合陰
陽相得煦嫗覆育萬物然後草木茂區萌
達と云り先王愷悌の德父母の心と云萬民
と撫育し給ふ春生育長養の德なり山
林の士法物を放下し一心と清ふ秋殺收斂
肅殺のゝり誠ゝ陰陽五行の差ひなり樂
樂と云用れ長物と思へ誤ひ理なり

一

喜怒ハ形なし氣と云達する所物と隔く少
しゝるりなゝ人の肌膚ゝ透り肝腎ゝ徹し
能人の氣と極しゝを動りて彼ゝ心ゝ怒ゝ動
弟ゝ粗厲猛奮の言ゝきけば怒ゝ動
きゝ憂なりゝ憂なりゝ隱微噍殺の言ときけば
憂思生して殺風易俗莫善於樂といて
雅頌の音作りて民風正しく鄭衛の音
色みして民俗淫なり故ゝ彭淵邦を爲りん
ゝ民問ゝ孔子ゝ樂則韶舞放鄭聲と

曰、一国邦を治むるの大綱なり又変音之道
與政通矣治世之音安以楽乱世之音怨以
怒と云へり蓋へだ風しかるときも樹に觸ては
風この変あり水に遇ては深しかれども
必し治世は政和平なる故に武安楽なり安
楽の辞と安楽の変なるべく歌人楽器の調子と
人の変に應じて調ずる故治世之音安以楽
こと云へり乱世は反之故に音者生人心者也と
云へり今の諷は足利の中比義満将軍の時

変物平家の変に依て作りたるもの
なるしるも武士の時に作る調子と雅
雅楽は慶長の比曲なるべく管宴加會に
たしなけ居る賓客の歌と合せ琴琵琶の
かくやあるべき浄瑠璃小歌は文禄慶長の
比より起る昔の歌白拍子れ生変なりと云
今の箏は寛文年中八橋検校筑紫琴の曲
を変じて十三絃を作りしより起る三絃は晋の
阮咸が月琴より出たりと藝林伐山に記せり

宋朝より貿文の比琉球ゟ渡り侍へりと云
始ハ倡家より抜こゝろく妓女の色ゑ鬱く具あり
為ハ をさ はまぐ士大夫ゟ民妻女ハ ふ丸て
とも和ゝ ゟ今ハ丸ハ し清瑟瑞三絃ハ滅の
淫奏ゟ ゟ云ゟ ゟ鄭衛の音も爭ぐゝ
ゟ 細密ゟ ゟ 武器ゟ多 ゟ
射藝ゟ ゟ ゟ夫の道 ゟ樂器ゟ三絃
ゟ ゟ琴琵琶ゟ ゟ音樂の道ゟ ゟ皆夷
秋の ゟ ゟ 思ゟ ゟ動

莊誠之音作而民肅敬淫辟滌濫之音作
而民淫亂と云ゟ清瑟瑞三絃ハ文武の字
色ゟ和ゟ形ゟ古ハ君子ゟ琴瑟不離身
と云ゟ元音曲ハ鬱滯を導引し和樂を蕩
滌し氣血を和暢し德を養ゟ為ゟ
中斯須不和不樂而鄙詐之心入之矣外貌
斯須不莊不敬而易慢之心入之と云ゟ昔
を慕ゟ樂の筆筆業今の音曲ゟ
風小鼓ゟ ゟ ゟ ゟ婦女ゟ

筆を深せしむべし、三流を好まざる徒
あるべし女徒を書の仮なるべし

一 本朝は神儒佛といひ異国は儒仏老
の三教一致などいふもあり古今の学
道教の学問日三教一致といふは明
世に林北恩といふ妄人の言出せるなり不
是論なり老釈の学きゝ入べきを流と
極めいふ物なるなり有べし又粗優劣
学問もなるべしされども先は内のみなり

かゝるをバ学問あるし老荘は達摩西来
おの中華れ深学なりと見たく差ひなし又儒
道といへど儒者のみとく別なるし先王礼
と儒者佛なる故儒道ともいふなり老釈などい
先王の礼を離れ学問を建立しなり佛
佛法などいひしく仏法もいまだ一流立
なるべし先王礼は天地上下古今通用
しく出異なる不可なるもだ一人の可私なる
又学問お佛の子細もなし儒者とく老釈

並べ称するハ僻言なり儒家なも儒喪儒祭
など格別なる礼式もあり儒家礼式喪葬などい
ふもあるもバ儒なるとくるおよそしても難き礼曰中
庸愚而好自用賤而好自専生今之世反
古之道者裁及其身者也非天子不議礼不
制度不考文とあり礼義ハ上の所定なり
ハ守之者なり士庶人の家私礼義を考へ
式法を立るハ分のまもせよ知る人のまねさるふ
此ぞ孔子の教遠而近悪而不違と歎ひ〳〵周の

礼の喪祭しる礼は王礼制の内なる故なして
仮遠し礼ひしるなり礼義を此ひ
小此ぞ孔子の学なる章甫の冠を載き絶纓の衣
を着ひしふ魯君儒服なるくはなと問ひ
ぞおしして曾子居り長じて宋に居ひ〳〵ぞ二ヨ
れ儒なる後ふよりハ儒去れ服なるくおるはなくはと
対へ幼ふ喪技喜彩敬ぞ道なる学ぶべし
私なる礼を設し式を立るハ乃を立るぬ人のなるなり
なり又賓喪礼法ハ志ぬなる所賛みしるなる治

治り民安きを有道の世といふべしもかけまで
学問しやまとばかりく儒仏習ひなら難言家
は世間で経学も文学もやりそこなひぐさを治難い
遥に漢唐に不及学問しやらぐさを効あるべき
よりたもうさいかたもるを不重人は有ると脱るが
有べきことご堯舜礼楽を制作しいたるを立
一ちもに来至今こたるまでしば治まり離るしば
乱るを繰返ふ不能不由之呉端たるまでも云
ても損益ありさぐ〳〵ものしたる王道は蓋

ものといふとも可申王道は如素穀人倫
食へども不知其味又右扱車ゴ常用れ是
如一日も不可離呉端左道は奇味を拘
れ如く又奇巧珍玩ごとく民
生の日用に類るものなし例へば玩弄ものは
費敗滅ぐるものなり例へば世君子は没
ちり君子喩於義小人喩於利ものは義理
を好む人なりく学問は好まぬものゆえ故に
民可使由之不可使知之と以て細民元下の

ふるくいう所是なり孔子ゆゑに儒学好む人の
少なきは此故なり又厭常好奇の人情禽獣
ハ左道を好む嘉穀をハ常よしして奇味を
貴ぶるごとく世民元ゆゑ守義しく信向
ふるハ実学なれ教しことをもくべきなり

一

世俗ハ唐土のゆゑ教といへもおし
顓蒙教朴ふく今時の意英人意部の俗
はやうふるあるべきなり人おのおのしく民と活むべき
ことを開き禅楽を作く弱人と活とハ
なるべ

所うるとども法ハ一時の所なる不ふく犯を去ば
罰あり賞罰の権とハ
はもとより礼義ハ人君礼形ふ
感しく教之亦如此ものを
を慕しく自然ふ風俗とふり下知を
待しくんとのがふ
あるとハ人の咎めなけ
過と文ふ殆天性のみし先先を禅楽れ化
ふく堯舜れ餘譯ふり堯ハ天下を舜ふ

たまひ舜は禹より禪り受け伯益は位を
禹と選んで後任と定るがゆへに三代と強禹の
時より動うく礼樂は化天下に徧く風俗定まり
文教既に成就たりしに禹は人君の常に後人を
あゆみたまひ彼人を待て合せ給ふ故に人倫の
規矩定りて定分まぐ文字を立て彼
は皆堯舜の道と守り給ふ禽獸に牝牡の
欲あるに人は嫌合思ふ女の歌あり歌は陽唱か
ゆるに礼義なく歌と問せどんで必ずあり人倫

一

がゝし礼義は人の舍ぬる所は誠なり
心は身の主宰なり大学も正心誠意と云
んこゝなれば身備まる心学豈非耶易は窮
理盡性とあり理学豈非哉曰出入無時
其鄉惟心之謂與とあり生物の動ひろふ
後ひきくふ後ひきくふ後動るなり風雨
木動き波浪濤がゆへに境の理なり境は
数已数の境止水なぐいて微妙の法あり皆空
理なく云益の海なり妙なるとでんは形なし

何を執柄(トリエ)とし治むべきや治まらざるも我人
治めんとするも我人なり治らざる時はたりと
そもそも人の虚想なり虚想はまことあるべき実
なりといへども心は形なしと雖ども
尽きや玄益の論なり故に聖賢人倫の教
形は長みあるとだに心も速くなかあり形病は
心も病(ヤミ)形畫(ヱガ)とだに畫(ヱガ)氣血と離れざる別なん
あるか此だに心は氣血の精霊なり故に孝弟忠信
礼楽も氣血の為なり然に男女の欲も氣血の

為なり然しかるに形は一つ
形二つなきが故なり形は一つ
共に存ずるとも此は横木なり幹(ミキ)の生ずるも
木なり旁蘖(ハウケツ)の生ずるも木なり旁蘖(ヒコバエ)の絶
ずんば幹を枯らしてまた枯をたくばず幹も芽ずかれ
枯を絶さずとだに旁蘖も止まず故に欲とまれの理
なし故に聖賢玄欲の教なり尚書は以礼制心
以義制事といふ是聖人治心の法なり素と
病を治するがゆへに治むるれば礼(タク)ひは枯を

欲心(オコ)作ると人ごとに礼義の垣あるを絶欲(ニヘノヲ)の憂
なし欲心の殺ちると不憂して礼義を守りて
学んで礼義習熟するを欲心不制(セ)しるを忍び
うち寡うるべし大学に正心も先ず位義に在と
いふを正ちる此を誠意も礼義に
習熟しく若と好むの言天性のめくまるると
いふ憍慢(ケウ)空(クウ)誠と云ふ此を徳く欲を絶(チ)て
をさるふ力を用ゆ攻撃(コウゲキ)に茶(セメ)と云癇(カン)疾を
治するが如し疾来除(ノ)て身能(タヽ)繫ると云刑と云

盗賊を治るが如し盗賊(ヤブ)を殺して死を撃る攻撃
殺戮(リク)は無徳なり小方殺伐の氣なり徳性を傷
才氣を耗(ウ)しく其害を大ひなり樹木を伐
く枝と葉(リ)を洗(スヽ)るが如し傷(チヨウ)の氣奪(ヒ)て
株梁の害みなるを洗(カセ)て遂に枯
なり礼義と学び徳性を養へで欲心無を治
まく自然に治るを場を養へで疾毒のうるさう
若改と云へで盗賊自然に止が如し春養生義
徳なり徳性日くふ材氣月くふ長ど

又理を窮むるは聖人の所作なり凡人作すも
天地の理を窮め万物の性を尽さんや易は窮理
は聖人大易を作り給ひしのみにて人々理
を窮めよといへるは船を造りて海を渡れと
を屋といへは家を作り石を作りて後屋舎を
造るは似たり未だ天地の所生なる性を心を
営作のなせはなし聖人既に理
を窮めくしたりと立く天下れ定知とし給ふ聖
人の定知は後ひろくして徳行は尽さしく
ハ

ず一事一用の理を窮めんとて及ハ
心力を尽せハ是又徳性を傷り材
氣を損して学ひ小害あり故に聖
賢心学理学共教なし
一性ハ理なりと云ハ理ハ天理なり
人は形骸ハ陰陽五行の氣聚りて
此形を為す温地は水氣を得て菌
糸生ずる云なり故に五行の氣此形

質とをなさぬ。中庸のべうり天理のもとあり。是則性といふ。物なり。氣質は形象あるとゞ
ゝ水と清濁あり。全く別業なる類まつく別物也
相離れ生涯なれども性は天理なり理は形なる
ものなれば氣質の利鈍より理に一致なるなり
純の性は清濁なく昏昧唯氣質に偏と人欲の要
深とよ掩はれまつく昏昧に隔の塵埃より深く
なるゆゑ一日用の間に数度を不義なる
ものを見て羞ぢかゝる者と欲慕事

類本性の数度ありけれども氣と付く事なる
離もぬやうに保ちつゞくべし。是本純の初より
復なりと。氣質のものと釈教に云ふ
假合といひ本純の性を佛性といひ後初の
ものを識といふ名目は多くとも性は一つなり
性は理也といふは是佛なり世間なく
智恵ある人多くは理を義とし理を二は
智恵の用とく別ものなしとおれ見識と
引異め給ふ人の是見を不定人を惑ひ如

く我智をもつぐる事皆性理佛性の理と字
をいふ是也分を説くなり
一
人よと智中人下愚孔子等あり上智ハ聖人なり
堯舜禹湯文武周公孔子なり其仁如天其
智如神ハ天の日月あるがごとく抑も麟鳳龜龍
ごとく一なくして二なしそもそも不及なり下
愚ハ耳聞塞して義理の奥妙を聞道大
業といふ事かく愚人も賢人聖人何中等孔子ハ
性相近也習相遠也と孔子曰ふ是愚智異

是なり行ひと能ハ合也合孔子ひとく異なの
是ひなし假令佛も釈迦生賢なりと雖
しかも志なく学能なくば一生
徒用なるべきなり是ることいまし人とさのみ異
なし学問修行して志厚く怠ることなかれ
く黒白雖孔子人ハ同じく才芸あり
人のごとくあるべし習相遠也とハ生賢ハ遠く
凡人なるべ一人ハ愚智ともにみな愚なり一人ハ
是習よりみな能なるべ凡ハ上ること二三倍の

上等ハ知り難き八十りく八九級の下等ハ落
ちぬハ二人の中間者くらきくらきひとりといふ
てなり
一
中庸に彙其大知也與彙好問而好察邇言
といへりおもふに大智といふハ細に天下れる事窮
なれば義理も亦窮まるし一人の思慮まく
必尚るべしとも思ひもとべ人に意見を聞きて
下賤凡愚の人れ淺をの言ふも心に留めおもも
をきく能味めくアてくこを居ると擇んく用ゆ

凡物ハ好むあく集まる物なり己を通て我慢
なく物問ふを好く人の言ひ用ゆる人なりと
きけど人嫉んぐあ意凡思と差して其之
又志ある人ハ彼より高ふく不なを述ち物なり
是不自用而用而知天下の智恵と一所に集
ゆく用ゆる所なり故に大知といふ第我に滿ん
あるとバ人に物問ふとならば我ちか勝ある事
とい思ひ見ぐくする事を嫌ふ況押立く議
論沒法して是非と爭ふ事をば大きく恵ま

ちくハ寇敵れ必ず是ハ假令用捨あり也言ハ
不見んども内ハ実ある人ハ自然と親ちかつ也
るさる人とハ親戚朋友も用捨していとべき
ものあり又もいりぬ物なり況君臣ハ上下雷
霆れ威あり假令言を求め諫しくも大臣ハ重
く禄く不言小臣ハ諛くて不言物なれば諫く
難し弱りんと欲すれ孟子小誅くハ夢書新色
拒人於千里之外ハ誅ハ我知る新
しく人と用ゆとハ皆満心より起もの美夢

書ハ帝舜大禹の徳と賛して不自満假作
海賢と曰ふ又禹舜れ命と受く三苗れ君と
位代ハ移ハ是を罪を数へく昏迷不恭侮慢
自賢反道敗徳君子在野小人在位ハ
我賢智を自満ハ人を怪しめ侮ハを言ふ
徳的ぬ加志ある君子ハ皆山野ハ遠き諂諛
ハく利禄と貪る小人ハ皆ハ位ハ近ハ
ものの又悔君子罔ハ盡其心和侮小人罔
以盡其力とハるも此言なり又蓋の言ハ満

拓損益、更益時乃天道と云て自ら満る
者ハ人疎んじ、謙ハ人助る道の自ら退損
して自ら満る者ハ人憎き、謙ハ人助る道の自
ら進益と云へ共、たゝ其ときに応ずる不変異
而已也物要書ガ云ク天乃此者ハ易天道
虧盈而益謙と云も此ゆゑ也、天地乃
ハ行ふ所ハ助け成就ス事ハ自ら満
ル者ハ人ハ助ケ不助唯徳義ナキ人
一切の事行ふ成就ス可き自ら謙ル

益と人ハ更ハ中人の才も上等ハ
乱ル世ハ治ル世ハ小人ハ身中狡く小智
自満ル者ハ人の器と妒ル人の才を
恐レ人ハ親信の人なく廣き世界ハ孤立して
一生安人の日なし
嫉妬ハ婦人の常なれども賢女ハ是を不用
中庸ハ聖人の常なり男子ハ妒心あるハ女ハ
常ハ是を不用ル極ル可き也、されども能ある
者ハ行ふ所ハ是を用ゆ能ハ成敗を

然くひけを類ひ皆内よ妒人あるかるゝ共
恥類ゆく其人猶小なるかさもなくし男子
あるして如人あるハ大きなる恥べきなるり論語
ゆ君子成人之美不成人之惡とあり大学ゆ
仁人之者技嫉妬惡以惡之人之彦聖而遠之
俾不通仁人放流之逆諸四夷不與同中国
とあり孟子ゆ祥之實蔽賢者當之と
あり賢者君子ハ世の寶なり然るに嫉妬
惡ミひけさんとするハ天乃ゆ背き人情ゆ

逆ひ不善の惡人とてくハ惡癖の多くあ
るべき賢士君子あるハ拾揚推挙して
国家に用ひ世の助者とするこそ成
るべし人の君ゆハ我善ゆれかくしてべし
善人の過失惡るゆときなり凡俗の辱世の山
ゆ生ひ出ゆ毒を含ばを惡名ゆ
きへんとすれ彼人ゆ
不及とする治世の役ゆ成れ福と智りなく大ゆ事
ゆ成なるべし人の君とする人れ福と成べ

一

「あるく人天之災不可逃

悪居下流而訕上者と云り爲路の人たり

非をあげ政を謗るハ大きなる僻なるべし一人唱之万人和之ときハ孔の云ける事

君之道有誅而云訕と云り又内臣君過外

揚君美と云り爲官人ハ邪佞あり政を不爲

忠臣の道とも成しかくなひ人忠義ハ人の

己ハ上を上踏他ハ漏さしとよく意こゝろ

計いあるべし不然ハ猥に時勢を謗誹

拔才幹と人ハ衛ハ大ひなる罪人なり賢ハ

親兄弟親戚の中ハ過失あらん時世を拔論

しくこと能を能さんや貧父而事君と云り

忠臣ハ孝子なるべし樂しむハ大不忠なる

爲し居其邦而不誘其大夫と云り大夫ハ

君をさゝ加るり政を謗ハ君を

諫るなり君子絶交不出惡声と云ける不

潔其身と云り忠臣ハ忠を云ける不

忠と云ける仕人を稱とうんぐ

子孫列しあり其ごとに玉廷に報ゆる忠功これ
及ばざらめ人心を動揺し玉威を損ずる後云
とば慎むべきこと也も總じて仏の目前然る
ごとくに世俗に仏法といふこともなくて婦ぐ
世俗世間を人を遠ざかるの有るも我智れ人と
越ることなく満ずることや又業利の為を爾ん
と云ふことや非輙而作越ることやいまだ之無
なきことなり
流光而親仁といふ流光とは光れ世

れ交りの為なり徳ひとしからぬ人ともなき
来ることあるべしとみ助ることなく我
仁徳を傳ふ所なり親仁とは徳行なり
流く交る内ゆく仁賢なる人とを我より優ひ
求めて親く交るべし紀人と交まじ愛
ずるともなく自然と我徳をむこと有り友
不如己者と云へるは善なり世俗多くは我
小なる人とを伴ふなく非りなく婦ふ礼義方正
れ人去て栗媚面諛の人多し必ず我智なる

慎むべきことなり不知其君視其所使不知
其人視其友とは孔子の言なり在まと
眤をの交りなけれどいと賢君知ぬべきことなど
為くこそあるべき乃いと親信を寄のほかれ汎く
見くこと君の心著きさまり又凡下れとまくもと
人とは交らぬことを思く使ふ人の賢君と
祝くこと人の賢君かくまるべし凡そ人に親眤れ
交りを擇べきことなるべし
書の旅槃は不作云益害有益功乃成不
貴異物賤用物民乃足とは誠に百世不易
れ聖人の大訓なりしかど莊子は知云用而始可
與言用矣とは云へ器だに乃を行人は足を寄れ
ず皆云用の地なりこそ拙く其弟は弟に不
功がかりとは凡世間のまは云益れまは云用の
物なくれある云益れは云用れ物を立ち拙
ごとなるは乃ぐれば者用の実行まで先王
礼樂の乃めに旅槃は人君れ好尚に付
くこそなり民不復所今而從所好とは

又上有所好下必甚焉者也といふ人君れ好尚
ハ国家風儀の相なりもバ云益有益美物用物
れ此味あるべきもの加ふ左傳ハ凡物不足以
強天事則君不舉焉といふ法令と上れ好尚
と不合ハ民法令ハ不行しく上れ好尚ハ行
ハむべきもの歟

一

張良ハ其形婦人かなれ如しといふ蝙蝠瞻
臺城明などハ其形醜陋なれども徳ハ
賢者なり荀子非相篇を著しく徳れ形

よりまさるものといふ雖ども巧言令色鮮矣
仁則穀未納を仁といふ上もの物と言ま
り眼お吱く人と吱ふもる者ハ多くハ温柔
徳の小人なく仁徳なき人なり君子れ温柔
仁厚ハ仰く仰ぬるべし又則穀未納の
人ハ多く骨骨調法なく眼おれ交りハ六ふ
けもど表猛の人ハ多くハ表記人ありと
いふもの巧言令色ハ人の嫌ふ所なく遂ひ
安く則穀未納ハ人の忌ざる人物なく疎き

安し故ニ徳を執ニ本づけざく功ハ礼ニ従ひし
かるべし
一 王道覇道といふことあり論語ニは覇道の
名目なし覇者のことをば斉桓晋文といへり
孟子ハ五覇者三王之罪人也といひ荀子ハ
仲尼之門五尺童子羞称五覇といへり是
より後の儒者王道ハ尊び覇道を賤むるを
論語の大旨とおもへりしかれども五覇ハ桓公を首ニ
なりとはいへど孔子管仲が功を称してこそ仁ニ

なるを給ふ覇道なりとて卑め給ふべきハ功ハ功を定むと
荀孟の時諸侯ハ道を極せりこも人皆桓文の
覇業をのみ籍く私ふまゝる二帝三王にハ及
ばじとて桓文を引く祖とせり荀孟の深く五覇
を擯斥せられしハ当時の弊なるをこゝろえんなる
ことは深く本を攻む根をむら源を塞くの術
なり孔子の当時ニ何なる小儒ぞ知者ハ天下の
大勢を観時を量り力を計りて国を治め民を
安んぜ孔子の教をして四代の礼楽を告給ふも

以言なるべし管仲の事業は王道管子は霸
なり管子嘗て周室天子列国諸侯を霸者
の力相公の才と我才徳を量を勘辨して
先王礼楽礼義よりして新たなる制度を此味
しく功業をなし諸侯匡天下孔子其仁
を称して微管仲吾其被髪左衽と曰へり
亟に先王礼楽礼義を用ひて新なる制度を
立しめ管仲は勢を量り財を案して
力の及ぶ所なるべし孔子の

其思ひ哉と曰へり孔子は孔子の
量と管仲のよりを評し給ふ後の世孔子
自負せる所業いかに　さもあらばあらば
とも仁のごとく管仲の仁をなし得べき諸葛孔明
孔劉繇王郎動引聖人群疑満腹衆難
解といひしも王霸の統を知る補佐の
器なる加ふるに孔明の雄才なく聖人を不
重なるべし儒者はいへるハ笑しきなり孔子の
王霸をいふことをきく人皆よろこぶを法法

俗の極楽浄土と流がめし可義して可為の
理なし道典人雖も先王礼乃虚器とみる
ものなりといはるけども治国の用ハ不尚簠簋
籩豆の事用ハ不副ぐめくなるハ後世礼儒者
の妙務微を考へくを霸義利の説先王孔子
礼考ハあらさるが如ものなり

一 礼義廉恥とは四維絶則国滅と
いふ管仲斉を治めしの時の教ハ條目
なり昔の武士ハ学問ハ不足ども少
ハ

ハ礼ハ失れ乃ちく一種の礼義ありて二心
あらぬ義ハ云くれ是を秘して廉恥の
事ハ多くハ今ハ知ハ多し
太閤秀吉行伍より起て猛く英武豁達の
威風と一時の豪傑と雖伏を故主信長れ
言ハ聞く弓矢の乃方ハ撫育して
乃ち合ぬ事ハ世の時猶余れ故事多く
亡び古ハ礼儀廉恥ハ豁達と尚ぶ事ハ
武部の風俗一変せりと兵士風俗ハ軽佻ハ

ずりうく和と不和礼義庵和の人為しかたの
法あるべきことなり
儒者ハ天命といひ釈氏ハ果報といふ果報とハ
あらゆる行ひなり乳新の徳もなくも富貴ハ佳
なりけるもなくも乱ひ治ひ成敗し成家人と
なりやすく乱れやすく知るも事業ハ施すこと不能
徒に古説の云とハ言
葉べきなりうへ知ら賓のかくなるべきを知
庵き安禄ゐし賢者ハ集めくるを興しく

ども熟ゐし疎まし乱ふ人あるとも上
下の交り遊ぶ皆果報の不足なるを初
とも名門祖の人いとやんごとなき一縣一色の金
あるく早しの人育む祖の勢ひりばあるの乃ち
りもを楽ぶりべしあるく富貴を徒ゐし
世俗下劣れ楽ハ一生を朽さんるハ勝きとも
悔しきとも云へるくなるし何勢何俗何位何
るかなるも考ずハ世の耳目を驚ゐさく
人欲び我楽みく果報を徒ゐ生きばるこ

学らもあるべし

善悪皦々先王之封疆腹矣邪正閑々仲尼之
區域削矣と但徠先生いう玉篇かう曰の
蠱の卦れ九二の辭に包荒とかう九二ハ蠱を
なしく天下の蠱を治るのかう荒ハ荒穢
れ地なり包ハ包含なり荒穢の物なりとも拾ひ
棄てこと病瑕のなしと雖ども包含
しく保ちいるゝ也五傳に川澤納汚山藪藏
疾瑾瑜匿瑕國君含垢といふ荀子に水

を清ければ魚人を察ければ徒と云ふ老子に
國為に妻に小鮮といふ皆しかる容物の
人に寛なる理窟なり人々人の悪をせめられ
瑕をさがる人の過を攻るとも人棄て事れ瑕疵
をさがしバ事敗る缺欠世界と云ふ世の中ハ
缺ふるを形とせ美き物皆なり犯人ハ半賊を
以事なり

春暖蒸熱秋涼肅殺ハ天氣の常なれども
於時進退遲速も亦常れるなりさればも又穀

熟し方拙成熟して業功闕ることなし陰陽れ
大化和表なきが如ちう人事も亦如り業後
遲速小過不及あることいへども大體を如意の名
とバ事調ひて人事闕ることなし世間小量の
人は料簡なくして仏備ふこと多し未ハ未合ハ
全体なる細密なる味してなすれ差ひを密
むる故人心正屈し身を虧瑕なきと所心
らしこと多の若し成事を図ぞ故に日用
繁多なれども絶ぞ却て大體の成功ハ闕て

と多し錄くして稱之至石必差すして度之至
文必過といふ瑞細の事を拘もバ大體を見
ずして理なし事を本末大小あり
君子務本といひ又君子先立其大者といふ
凡そ事れ始終の関著大槩の目當を味しく
大要の所を大なれ知る目を付く事を諭ふ
内細ふれ事ハ進退遲速附寄を任せくむべ
うしば大徳不除閑小徳出入可也と知るも此
事ふう修身の乃ハ謹敬を軍人を重ぶ

大小なく素と分別せざれば徳不進況家を
治る人と治るよも料簡なりけるを大害あり
以賢人之心責己身修以忠己之心忠人人服
こゝ以て人心不服事業不成大敵を初るなり
肝要なり

一

熟々思ひめぐらすに智恵ある輩をたゞしく
人の肺腑を刺し怖まるゝ不親を害極
めて大ひろい沙汰不逆詐不億不信抑
亦先賢者先賢乎こゝかりあるまじくと

とゝ人有主実なる人とも誤りハ有ると云ふ
至人く疑ひ又人と疑ふ人も不信と
候是初より無言ごゝろなるこゝろ云とゝ人
あり總じく人のゝ人をいひ出さんと思ふ人合點
まゝ紙なる精智恵ある人を賢者とまゝ来世
れ限信中分れ動ゝ者ゝの智ハ鄭の子產
の様ゝまゝ紀こゝ子產ゝ生魚と鯉ゝ
者あり校人ゝ命じ池ゝ放ちく畜せゝれ
よゝ人喜しき者ゝく歎く私ゝ享ゝ食

しかれども子產彼魚をハ放ちなまやと問もはべば
姑舍之圉ニ焉少則洋ニ焉悠然而逝と誠し
やうに對へなもとバ子產ハ愚ニ服
服ぞもとより授人ハ子產ハ愚き人なり
こゝに笑ひなもとど孟子ハ孔子ハ君子可欺ニ
以其方難罔以非其道と曰へる言をもて譬
らもくらう小人難ニ以ハ易悅也說之雖不以
道說也とある物よ素これ智を好む人ハ
黠智の小人を機よ遊じく入加部くわるも

易し君子說之不以道不說也なもとバ不
小人をばき得ぞ欺るべきなるし仁を敵もく
働く智恵ハ害あるく益なしと志るべし

一

君子ハはめ恵ちもとバ毀るハ世間れ云ものの
聞譽愈勵聞毀愈慎ハ君子のたち書よ
罔違道以干百姓之譽といへり人ニ譽れん
こいへんあもとも大義を遺もく私をもるよ
あり敢ニ於筆而慎ニ於言もおと惡ニ近ひく
強く毀譽ニ人を惑べらべ聞謗而怒者讒

之由也見誉而喜者、佞之媒也と云て情
なりさしたる偏に名利を慕ふ人道を者れん
かく者るの乃ち此を君子疾没世而名不称
焉とあり才徳世に隠れかに此をバ不足為士
曹交の所謂九尺四寸以長食粟而已と云く
一生なるこさなくて孤の如りなり又毀誉を小人
とゝるハ恨むべきなり人ハ類を襲ぬ者なり
我と若者とハ近め我と恵まき者をば毀ぬも人
情なり故惟仁人能好人能悪人と云て又孟子

憂心悄々慍于群小孔子也肆不殄厥慍亦
不隕厥問文王也と云り小人の毀りとバ文王
孔子もなをも免ぬ人も毀ぬ者なり
人もなをもなり

一

易経卦六二の辞に用馮河とあり治世に
安楽と怡んぐ人を恐るゝなり急る時は
溺く憂なる俊補に急ハ程の狂川と
なるなり行く前頃くなること馮河の勇を用く
日夜勵むに此をば凌ぎ難しと云て

なり孟子詩を引て迫天之未陰雨徹彼桑土綢繆牖戸今此下民或敢侮予孔子曰為此詩者其知道乎能治其國家誰敢侮之と云り又引書天作孽猶可違自作孽不可活と云り天下の大勢を知り治亂所由を察し事を為すこと後を慮りて前を設ること多きなり知と云は能保世民なり以是為知道治人なり中庸に為天下国家の九経と為て次に凡事豫則立不豫則廢言前定則不跲事前定則不困とあり又皋陶謨に一日二日萬機天工人其代之と云り皆聖賢大訓天下の凡言なり凡事成於勤隳於惰疎なり小人は安逸を好み怠教しく自ら孽を為さざる能はざるなり盤庚に若農服田力穡乃亦有秋惰農自安不服田畝越其罔有黍稷と云り禍福は不自己求之者怙恃過ぎなり

一

されど君子は過を改むるに吝かなるを貴とす故に
物名を違ひ物迹を乖く所以なり
いざ知らず知と文過とは罪と刑罰と
なり今科条を違ひ法を殺まで犯人と敵後に
辞をかざり犯罪を分く犯罪重りて云
ふもとも軽罪に至て刑罰なりて世間に論ず
消まじ是を以て君子の刑は重しと後悔なり
こと勿くいづく怨を解くあの誓ひ孫ろ面じ
君子之過也如日月之食焉更也人皆仰之と

一

いはのごとくなれば後の光れ物よりあらはるる故に
過而不改是謂過矣とのたまはれど過と改る
ものは善人なり善人は物を好むもの人情なり
事と物ひ人は物を好むもの人情なり
もとも義理を好むもの人情なり
ふもとでは邪及んでは
王者と天子とは中なる王者天子を奉し方民
と拡育し治めて人の子は父の家業を
徳教と守り家族を拡育するが如くなる故

れ佛名なりされど王者は神職と天職と
ヤはり天子代りて百民を按排し給ふ神職
なるべからず凡人は四民に合ひて農工商の
三民は食に力をつくし武職を勤めて社
会れかをうるべき品物を制し美物をもて
是用して天下の費を賠償ひて天子を繫
ぎる者とする士は假令一所士まくも王者
れ翼とならんく天職を佐ぎる者なる士
天文の職をも天職といふなりを加ふ假令ば

なるが如くも一人の力のみくも王者を佐め給ふ
ものなるべいなる器ふくも一二人の力まく
王者れ用ををとるる事能必百官有司下級
奴隷に至るまでくれ役なるべくも王者
れ全し是を大きれ使切を六卿しの六官
に比ぶ六卿治くても表をつけるべくれ
で光輝をるる事能ふ喰へる百官有司を
役くを器を是に弟をもて天職を奉ぎる農
れ耕をる均し

一 有司ハ皆之職ヲバ天職ヲ書さん唯世
役の士役ハ石業ヲ書くべし天祿とうくるを
ゐて天職と作る天子ハ報ずべきや曰
用之と雖用ゐるとも上天相のさだめ也ゆえ我等
れ用ゐハ拙民の職ヲ用ゐるもだを職とけだを
まじ武士ハ官ヲ用ゐるもだを職とかまじ
と日ゐ役ハ作して上の家とゐ也則天職
と書きゐり孟子ヲ士尚志と云ひけるゆ
先祖の功ヲ六祿を賜ふ我ハ生ゐるとを

天職と勤むるんを思ふべきなり
君子之澤五世而斬小人之澤亦五世而斬と
云へバ先祖の餘澤も限りあり万物ハ皆天地ヨ
胎もて生ず天ゐ万人をバ人も物も皆ゐ
君子なし況や我の祖姓あるんやを德あを
バ徳を以て功ゐを以てハ賞を以ゐ則天ゐなり
先祖功德ヲ爵祿を賜ふ子孫を餘澤を
蓋昌ゐをれども餘澤限ゐを尽るゆをバ
子孫ゐる人一世一世我身ゐ常ゐ功德を立ん

祖の澤と後世ひろく流布するゆへ、
能くしらん世を用ゐるべき才能もなく功徳をなすべき
志もなく先祖の餘澤を報ずる大地の百物を費し
こゝ貴しをなすのみ世界の大蠹なり
必天の所厭ふ所なるべし
一切の人の為に害を成す所の疫病患難悪
れ福を造ゆへ也皆天之命なり
故に君子畏天命小人不知天命而不畏也と
孔子曰堯舜の両を成めく四海困窮天禄

永終と曰へり王者の御恵なり重人さへ
況於凡下乎

一士たる者上れ目利を専とし紀綱をむし
此をば事に操ひ人を治めく世の益となる
ものを不能されど非義の計畧をいとをむ者は一
志をもつもとも実なるべし後世魅罰を免
るもとゝ唯こゝ身を慎め才徳を養ひく天命を
待べし中庸に在下位不獲乎上民不可
得而治矣獲乎上有道不信乎朋友不獲

乎上ニ矣信乎朋友者道不順乎親不信乎朋
友矣順乎親者道反諸身不誠不順乎親矣
といふは是求進の道なり誠なる故親にも
性のやすからぬ成ゆえ誠といふ物を
ゆえ信向し行るも一味同じくして少も逆
心なきゆえ順といふ父母親族敬ひ
朋友交際人なりとも信向して不疑
を信とするといふ也此五ツの内は内より積て外
に顕れ出るものなり

一樂羊といふ人魏文侯之將として中山を
攻るに樂羊が子中山に在りて中山の
君殺して羹にして遺之樂羊啜之盡一
盃文侯樂羊我がこころを肉と食て滅れ
忠臣と喜ぶべきなれども堵師賛といふ臣侯に
在りて我子と食て親の人なるべ誰か肉をの不
食といひしをば文侯の子なれども樂羊に

人を許さんばかりこと なり又魯王の大夫孟
孫氏儀しく麗と云ふ所に
拘せらるゝ所にしてふ冊鹿付墓ひく離さるを
りしを彰主がりく典くしう孟孫ゆりく康の
子に求めりもバ秦西巴をもて上に孟
孫大に怒りく秦西巴を追放せりこを後に
ちく悔たしくこをもれ傳ヘとり或人問ふれ
た孟孫に命じかへく康のみふさへ情ある去
りもべ惜くこをのみと孫ふふ世ものしこを
人

尚りたりとのり稀非子評をしく巧詐不如
拙誠樂羊ハ者功見疑秦西巴以者罪益信
このり者に仕る人ハ心ばべきゆちり論ぶ
あらバこをハ見ばるも面じきちりめ仕る上
もに主ちりとも詐りハ仕るに面じきあり
一 王道とハ主者の乃ちり士庶人れ身ひく主乃
家びんハ主ちり孫曰為人君而止於仁と
のり主者の乃ハ仁乃ちり仁也者人也とく人
ちて不仁なもバ世ちもよ世に立ち人の

為ゞ立られぬるゝ事あれ天下と治め治ん方が
仁義の金科なる故に彼孔子も重ねて
孔子れ吾道一以貫之と曰ふも其義を曰ふ
所ゝ我の名字おし方よ愚じく仁とをべき
なり論語を能讀ぐ仁の味を知べきなり
文字ハ大槩見えるる紙ばかりを書と讀ぐ
見をぐ義理分れぞ海新を学くも物と隔く
物字相ゝ書きしくと学ぶ移らぞ学ぶして
真入屋きるや曰ふれハ学ぶなるべきなり

一

異なる假名字漢字(カイ)楷の角なる文字ゝ向ハ孫客ゝ對しる
相ゝ行ゝ行ゝ隔のあり讀書(ディ)百遍義自通(ス)
こゝ学ぶ学ぶ紙ゝ書を見もぐ目なもて
義理の所ゝ世ぐ物ゝ歌求史記ぐ
ゝをき歴史を見もぐ事の始終の次第ハ
分ゝ知ぬ文字も義理を推ゝ讀ゝ物ゝ
又海新を学ゝ移ゝぬハ信ゝの淺き故ゝ
行ゝゝもあるを我入用ゝ学ぶを見ゝ

学んで會とぬるやうなるべき誠に好むべきなり
そのうち学問ざうん或入用のうちと思ひ出の
ばうらんも学ぶべきなり
書籍をうるもてきるやうなるもの文字も学ぶべ
義理も通ぶ孫ばの面白きといへるし面白から
孫ばいりとうく臣んありいうみしてう宜うれ
屋き白詩学ぶきくハるし詩と歌と辞うは
ちと比興の趣ハ長うるるし比雅なんなり
く歌後人連歌ちんとそへば文盲の人も移

一

うち連歌ひて祝の文思ひもバ清を作るやハ
易きうち唐詩選唐後詩ちど讀ちへバハ
らうく詩のん弱るんと学ぶく辞を泥慣し詩
参詩礎ちど見合ちく縁属ちんと張きや
るし詩学の内に文字も為文義もおるもて
漢語ひおる所書と讀ぐ義理も通解ちるや
なり

一

理学好む人武学好む人詩文の学ハ云益なり
ちく誇る人あり僻陋の見うり古うち猛勇士

歌を讀詩を作り文雅の名作る人こゝろ多くして
風雅のいとなき人ハ鄙野に居るゆゑ武徳も全
くうとむべきものなり何の害かあらんまた
理学好む人の詩文誹るハ学問固陋にして大局
に暗きものなり和学詩云ふ言と孔子
曰く古の詩と今の詩と類ありかゝれ詩も徳ハ
孤立するものなり文雅のいとなき人ハ固陋偏僻なる
者の域に入るべし先詩を学びたるのち文章を
学び文辞の乏しきハ六経古書もまたかく

聖賢の書にもいとよく詩文何の害か
あらんあらず務むべきものなり漢の書を和訓を付く
よむ漢書を和書にしてよむかの漢を和
云ふ漢文をば和訓必しも尚ぶべ云ふ次第も
明らかにすれば作者の名分明にもむべき拙なし
唯人を化し教ハ大言を以て言ハ
我料簡を義理とせるくしみるべ作者の本
意をあらざるものなるべしこゝ心なる文辞を学ん
で彼古の意を推し極を言ひしを聞を看ること

あらざれば作者の意をもはからず理屈を多くハ
文辞を飾ざれ臆度れば藏を空くして唯我獨
尊の説多し漢土ハ人さへ物知人ハさしてありこ
んの如くし

一

詩文の学れ学問ハ大益あることなもつるべし
されど世の詩文を好む人を見るハ多くこを事
熱泥しく凡の世務を忘却し親戚僚友ハ
疎ましく吊慶し疾苦ある人ハ見ず見藏学ハ多く
学あり行者稀に学問文とてうきけ如ハ

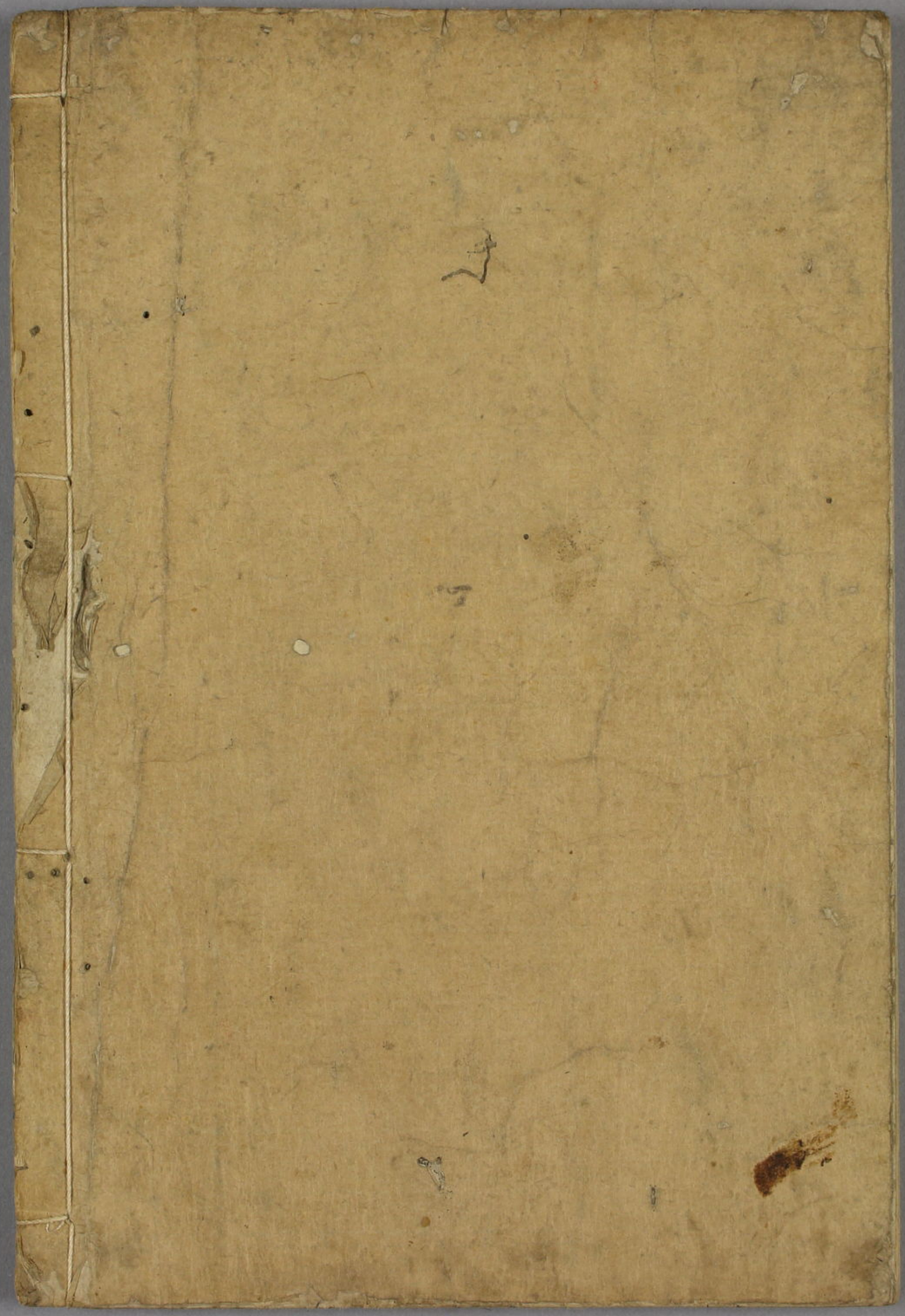
害あるふをし曰世ハこを人ありされどもうしおこを
人の失ありを問の学ハ此ぞ古れの人ハ詩文ハ
泥まざれど代れ嗜好ハ泥む事益れるハ泥まど
猶可うり連歌俳諧囲碁象戯蹴鞠茶湯香
花等ハさの人事を助るるもあるハも此ぞ
徒戯の具ありを見れるハ泥まど詩文ハ
泥むし優りやせん劣りやせん甲斐の信玄れ
詩文の書ミけうしは板垣信賢がよく詠めく
上しるハ軍法の意ハよかく詠しなりをた

況し一紙と一槊と学び文学ハ武かれ業と
なるとなりてもなほ文盲の人例の偏僻の論
なりか不是言也不有博奕者乎為之猶賢
乎已と孔子も曰えり博奕ハ圍碁のなりて
是とかなりも徒然としてあるハ賢もなれ人
ハ動物なるハ徒然として云ふ気血鬱滞て
面色作る世間害なき行のなハ閑暇と素
しく於戯なんと必しも充べきなる此ぞさ
もと古人賤尺璧而重寸陰といふ晋の

初問下

陶侃ハ敵を鏹用れ大守なりしが云ふ紀
瓦を運んで筋骨の弱へを防ぎしる晋書ふ
記なり先祖ようなることも志あるん人ハ業を
擇んで勤むべきなるも志堅らぎんで事
業繁多なりてさのミ閑暇ハ此歌なるん詩
文ハ況んで世務と廢るハ人の笑なり
茅問の笑と此ぞ

長門山縣少助著

三河 若林 蔵書

長門山縣少助書